2017.4.5
再巻 176 号

あんさんぶる

●2・3 月例会　No.611

はらだ　ひでよ
原田 英代

ピアノ・リサイタル

2017 年　4 月 21 日（金）
午後 7 時開演　あわぎんホール（郷土文化会館）

≪プログラム≫

J.S.バッハ＝ブゾーニ／シャコンヌ（無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第２番ニ短調 BWV1004 から）
シューベルト／幻想曲『さすらい人幻想曲』
♥♡♥　休憩　♥♡♥
チャイコフスキー／組曲『四季』より
１月「炉端で」　２月「謝肉祭」　４月「松雪草」
５月「白夜」　６月「舟歌」　８月「取り入れ」
１０月「秋の歌」　１２月「クリスマス」
チャイコフスキー／『ドゥムカ』ーロシアの農村風景ー
チャイコフスキー（プレトニョフ編曲）／『くるみ割り人形』より アダージョ

市民コンサート徳島　☎（088）652-4874　FAX652-3251
http://concert-tokusima.com または市民コンサート徳島で検索
770-0831　徳島市寺島本町西 2 丁目 16 竹内ビル 3F（郷土文化会館向い）

≪≪　曲　目　解　説　≫≫

J.S.バッハ＝ブゾーニ／シャコンヌ（無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第２番ニ短調　BWV1004 から）

この曲は、無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ全６曲のうち、特に重要なパルティータ第２番の最後に於かれた長大な曲です。このシャコンヌ（チャコーナ）は、古い舞曲の一つで、４小節の簡単な低音の和声定型を基にした雄大な変奏曲です。そしてこれは、主題と 30 の変奏曲からなっています。精神的な深さを湛え、技巧的にも難しいこの曲は、バッハの全作品の中でも屈指の傑作の一つです。またこの曲は、ヴァイオリンで演奏されるばかりでなくて、いろいろに編曲されています。

今日演奏されますピアノ独奏のために、ブゾーニが編曲したものは、特に有名です。

シューベルト／幻想曲　『さすらい人幻想曲』ハ長調　D.760

この作品は、シューベルトのピアノ作品の中で異彩を放っており、あらゆる点で他のピアノ・ソナタとは異なった性格を持っています。後期のソナタに３年程先んじた 1822 年に作曲されていますが、この作品は、晩年の優れたソナタを超越するばかりでなく、シューマン、ショパン、リスト等の盛期ロマン派のピアノ曲さえも、先取りしています。シューベルト自身により「幻想曲」と名付けられましたが、形式に関しては多くの研究者が、＜四楽章ソナタ＞であると指摘しています。全楽章が続けて書かれていますが、調性及び速度表示の変換で四つの楽章が明確に区別されます。しかし、全曲が強力な一つの素材によって統一されている点で、他のソナタとは異なっているといえます。　　一方でこの曲は、即興的な性格も非常に強く、作者自身がつけた「幻想曲（ファンタジー）」として素直に捉えるのが最も自然であるともいえます。

第１楽章：アレグロ・コン・フォーコ・マ・ノン・トロッポ　ハ長調４分の４拍子
　　曲頭に、この曲全体の統一素材となるダクチュル音形が、連打されます。
第２楽章：アダージョ、嬰ハ短調、４分の４拍子
　　自作のリート、「さすらい人」の旋律からとられた主題による変奏曲の楽章です。
第３楽章：プレスト、変イ長調、４分の３拍子
　　表示はありませんが、スケルツォ楽章と考えられます。
第４楽章：アレグロ、ハ長調、４分の４拍子
　　第１楽章と密接に連関していて、華麗なカデンツァ風な終局を作っています。

チャイコフスキー／組曲「四季」より

チャイコフスキーは、『白鳥の湖』を作曲中に、ペテルブルグの音楽雑誌「ヌーベリスト」から 1876 年 1 月～12 月の各号で月々にふさわしい題詩によるピアノ曲創作の依頼を受けました。シューマンの『森の情景』などのような自然描写を目指し、詩のイメージを音楽化するという試みから生まれたのが、この『四季』です。曲は、いずれも技術的には優しく作られています。しかし、彼の他のピアノ小品同様、なんの気取りもなく自然に書かれ、彼が生まれ育ったロシアの大地とそこに繰り広げられる自然と人間の営みが、愛情をこめて歌われます。

１月：「炉ばたで」（プーシキンの題詞）冬の夜、室内の暖かく安らかな雰囲気。
民謡風の主部旋律とノクターンを思わせる中間部のアルペジオが印象的。

２月：「謝肉祭」ヴャゼムスキーの題詞）厳しい冬の寒さの中で、遠い春を待ち焦がれる人々。
アコーディオンを模倣した音色が舞踊のリズムを強調し、謝肉祭を祝っている人々を描く。

４月：「まつゆき草」（マイコフの題詞）春の訪れを告げる「まつゆき草」に、自然の甦りを歌った曲。
メンデルスゾーンの無言歌のように旋律を十分に歌わせる中で、増二度の不協和音が、効果的に響く。

５月：「白夜」（フェートの題詞）夏至のころ、北国一帯を覆う白夜。
シューマン風の旋律を挿入し、光あふれた初夏の情景を幻想的に描く。

６月：「舟歌」（プレシチェーエフの題詞）舟遊びの明るい情景と、静かに揺れる船のリズムを巧みに描いた曲。この曲集中、最も有名な旋律の一つです。

８月：「取り入れ」（コリツェフの題詞）忙しく麦を刈る人々、そこには収穫の喜びがあふれる。

10 月：「秋の歌」（A.トルストイの題詞）チャイコフスキー特有の感傷的な旋律がゆく秋を惜しむ。

12 月：「クリスマス」（ジュコフスキーの題詞）華やかな祝いの雰囲気を描く、チャイコフスキー得意の優雅なワルツ。

チャイコフスキー／「ドゥムカ」　～ロシアの農村風景～

1886 年のパリ滞在中、厚いもてなしを受けた大ピアニスト、マルモンテルへの感謝をこめて書かれた作品。“ドゥムカ”は、ポーランドから周辺のスラブ圏一帯へ浸透したバラード風の歌曲・器楽曲の形式。
悲歌風及び情熱的な緩急二部からなります。スラブ民族特有の憂いに満ちた主旋律が、数々のエピソードを織り込み、壮大な幻想の世界を展開します。

チャイコフスキー（プレトニョフ編曲）／「くるみ割り人形」よりアダージョ

チャイコフスキー作曲のバレエ『くるみ割り人形』は、フランスの文豪アレクサンドル・デュマの脚本を基にマウリス・プティパが、二幕三場に構成したもので、クリスマス・イブの夜、主役の少女クララが見る夢を基にした幻想的なバレエです。ロシアのピアニストで指揮者のミハイル・プレトニョフ（1957 年生まれ）が、このバレエ音楽をピアノ独奏用に編曲しました。超絶技巧を凝らしたもので、他のピアニストもしばしば取り上げ演奏しています。
アダージョは、『くるみ割り人形』第２幕の“パ・ド・ドゥ”の中の最初の曲です。

♥♡♥　演奏家プロフィール　♥♡♥

原田 英代　（はらだ・ひでよ）

東京藝術大学、同大学院を経て、渡欧。
モスクワ音楽院の教授であったヴィクトール・メルジャーノフの下で研鑽を積む。
’８４年ジュネーブ国際コンクール最高位。
’９１年シューベルト国際ピアノコンクール（独）第１位。
’９３年モスクワにおける第１回ラフマニノフ国際ピアノコンクールで旧西側参加者の中で唯一入賞を果たす。
これまでに NHK 響、読売日響、日本フィル、新日本フィル、スイス・ロマンド管、WDR ケルン放響、南西ドイツフィル、ジョルジュ・エネスコ・フィル、チェコ・ナショナル響など、世界各地のオーケストラと共演し、マルチェロ・ヴィオッティ、クリスティアン・アンミンク、ウラディーミル・ヴァ―レック、尾高忠明、小泉裕、円光寺彦、本名徹などの揮者と共演。
ラインガウ、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、ベートーベン、ルートヴィクスブルク等ドイツの主要音楽祭より定期的に招聘を受けている。また、ドイツを代表する俳優たちとの朗読付きコンサートを開催、ドイツ演劇界の最高峰と謳われる大女優コリンナ・ハールフォーフとの共演は「強力なデュオ」と讃えられている。
’03年より、10 回にわたるシューベルト・チクルスを開催。ピアノ独奏、室内楽、歌曲などの幅広いジャンルの作品を網羅したプログラムを展開し、ボロディン弦楽四重奏団、ローマン・トレーケル（バリトン）、ミハイル・シモニアン（ヴァイオリン）、イェンス＝ペーター・マインツ（チェロ）等と共演。
’12 年より、連続演奏会『作曲家の絆』を開始。第１回目のボロディン弦楽四重奏団との公演は、朝日新聞に於いて「とてつもないピアニスト」と絶賛される。12 年 7 月、明治神宮にて行われた明治天皇百年祭にて奉納演奏を行う。
ドイツのアウディ―テレーベルより、グリーグ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、シューマン、シューベルトの CD をリリース。“Gramophone”誌　推薦盤、ドイツ“FONO FORUM”誌　今月の星等世界の音楽誌や新聞で高い評価を得る。日本においても、読売新聞やレコード芸術誌にて特選盤に選ばれる。
’14 年 7 月、みすず書房より初となる著書『ロシア・ピアニズムの贈り物』を出版。’99 年中国電力協賛第 5 回エネルギア音楽賞、’01 年山口県芸術文化振興奨励賞受賞。「これほどまでに自己の感動を聴衆に伝えることに専念できるピアニストは、日本でも稀有な存在」と評され、女流ピアニストとは思えないスケールの大きさと柔らかな繊細さを兼ね備えた真の実力派ピアニストとして賞賛されている。

バックステージ

１月例会（朴　葵姫　例会）の交流会から

朴　葵姫さんは，これまでずっと聴きたかったギタリストでした。だから，今回，やっと例会が実現し，夢のような気分でした。そのテクニックや表現は，ＣＤで聴くのより，ずっとずっと素晴らしいものでした。

例会終了後，葵姫さんにインタビューを行いました。

―ギタリストとしては，爪が非常に短いですね。

わたしは，爪が薄いのです。だから，爪と肉の半々で弾くために短くしています。

―トレモロの美しさは想像以上でしたが，何か秘訣があるのでしょうか。

トレモロは，男性より女性の方がきれいな場合が多いです。骨が細い方が，トレモロの粒をそろえるのにいいのではないでしょうか。ちなみにラスゲヤードは，男性の方がいいです。

―葵姫さんの演奏では，演奏中に弦をこする音がほとんど聞こえませんね。それはなぜですか。

弦をこする音は，この頃はあまり好まれません。場合によっては，ミスとしてとらえられることもあるぐらいです。わたしは，教えてくださった先生に叱られて，出さないようにしてきました。以前は指先が硬かったけど，今はそれもなくなってきました。弦をこする音は，出さないようにコントロールできるんです。

―「きゃりーぱみゅぱみゅ」さんに似ていると言われませんか。

よく言われます。「きゅひぱふぱふ」と言われます。（笑）

―葵姫さんは，いつから日本に住んでいらっしゃるのですか。

生まれは仁川（インチョン）です。義務教育は日本で受けました。その後，１５歳までは韓国にいましたが，それ以来は日本で住んでいます。

―ギターとの馴れ初めをお話しください。

母親が日本のギター教室に通っていたのです。そのことがきっかけになりました。

―これからどんな音楽を弾いていきたいですか。

いろいろな音楽を幅広く弾いていきたいと思っています。ソルの練習曲も弾いていきたいです。バロック，古典，現代の曲，知られていない曲や懐かしい曲など，バランスをとって弾いていきたい。わたしの中では「バランスをとる」ことが大事なのです。

朴さんは，ルックスはアイドルのように可愛いのに，考え方はしっかりした方だなと思いました。今回は，タレガを演奏されましたが，ソルの練習曲もぜひ聴いてみたいです。葵姫さんは，「タレガ・ギター・カルテット」のメンバーの一人でもあります。このカルテットは，タレガのように「記憶に残る演奏をしたい」ということで命名されたそうです。そのメンバーの中には徳島出身の徳永真一郎さんもいます。当日の交流会では，その徳永さんの話で，盛り上がりました。葵姫さんにとって，「徳島と言えば，徳永くん」というイメージらしいです。

写真は，例会が終わって，会場の控え室を出る葵姫さんです。白いギターを背中に背負った姿が何とも可愛らしかったです。ぜひ，今回の例会をきっかけに徳島にまたお出でください。その時には，阿波踊りもご覧になってくださいね。

（機関紙部　鎌田　憲二）

ステージに妖精が現れたのかと思った。

～朴　葵姫　ギター・リサイタル

2017 年 2 月 19 日（日）　郷土文化会館（あわぎんホール）

★詩情豊かに内面に語りかけてくるようなギター。オーケストラでお目見えする楽器ではありませんが，自分もギターを習ってみたくなりました。　（マコ）

★ステージに登場した朴さんを見た時，妖精が現れたと思った。その妖精が森の中で，風の音や小川のせせらぎの音を奏でる。無理のない自然な音が，すっと胸にしみてくる。哀愁のある，とても美しい演奏だと思った。

（ミルク１）

★音がなめらかできれい。マイク無しで，あれだけの音量が出るのがスゴイ！又，聴きたいです。（天野　弘明）

★良かった。昔，旅をしたカタロニア，アンダルシアを思った。

★音の響きの豊かさ，音色の幅広さに驚きました。

（岡本　耕介）

★韓国のご出身なのに，日本語の発音がきれいです。演奏もとても上手ですね。とても楽しかったです。

（門田　樹郎）

★朴さんを CD で初めて聴いたときに驚きましたが，生で演奏されるのを聴いたのは初めてでした。とても素敵な音でした。クラシックギターの柔らかな響きが心地よく，疲れがとれて，また明日から頑張れる気がしました。

（たおぶー）

★アマゾンをイメージした新しい曲が興味深かった。

★上手にひけていました。強弱がつけられていて，きれいでした。体ごと動いているから，いい音がしていました。

（ぽこあぽこ　　川田もえ）

★いろいろな音色がとてもきれいでした。同音連打もきれいでした。ギターのしくみを知ってみたいです。

（ぽこあぽこ　スース）

★場面がコロコロ変わるところがおもしろいなと思いました。タレガの「涙」という曲の音色がとてもきれいでした。音を聞いていることがよく分かりました。

（ぽこあぽこ　川田　万結）

★ちょうげんまで，えんそうのようですてきでした。左手だけで，メロディと，ばんそうの音をつかいわけていて，とてもすごかったです。　（ぽこあぽこ　小林　浬）

★思ったより音が小さかった。ギターで，なめらかな曲をえんそうしているのは，はじめてみておどろいた。きれいな音だと思った。ひょうげんの仕方が好きだった。

（ぽこあぽこ　中西　莉菜）

★高い位置への指の移動や「タラララララ」というリズムのところの指がきれいに動いていたところがすごかった。ベース音がピアノの音のようにきこえた。強弱がよくできていた。　（ぽこあぽこ　福岡　帆奈）

★ギターは色々な音が出せて，すごいと思いました。ゆびが速くうごいたりするところが，とてもむずかしそうと思いました。　（ぽこあぽこ　林　里咲）

★「森に夢見る」のメロディがとてもきれいで，えんそうにひきこまれました。トレモロがこの上なくきれいでした。ぼくも，人を感動させるようなえんそうができる，素晴らしいと思わせるようなえんそうができる人になりたいと思いました。　（ぽこあぽこ　濵田　共生）

★優しい音色がとてもきれいだった。

（ぽこあぽこ　KCEE）

★楽しかった。　（仁木ゆいか）

★とても良かった。　（西野　康光）

★朴さんは日本語が上手だった。　（坂田　和）

★アルペジオが美しいことは，前から知っていたが，音色が多様なことに驚きました。とても楽しめました。

（みき　枝澤）

★音色が美しいし，優しい演奏でした。以前クラシックギターをやっていたことがあり，チャレンジした曲もあったので，なつかしく聴きました。　（中尾　賢一）

★女性らしい音で大変よかった。　（野村　勝）

★すばらしかった。　（カンちゃん）

★はじめてクラシックギターの演奏を観た。左手の動きの細やかさに驚いた。　（八意）

★とてもいやされました。ギターとってもいいですね。

★「スペイン組曲」すっと曲の中に入っていける素直さがすばらしかった。もっともすごく勉強家だと思った。やさしいひびきに時間を忘れた。

★期待をうらぎらない演奏で大変満足しました。

（堤　誠一郎）

★日本語が上手なので，びっくりしました。ギターの特有の音色がすてきでした。　（ぽこあぽこ　めぐ）

★もっとたくさんの方々に聞いて頂ける様，会員以外の方々に宣伝していただきたい。

★とても良かったです。

★すべて素晴らしかったです。心にひびくギターの音色でした。

★ギターのコンサートを聴くのは初めてでしたが，朴さんの演奏を聴いて，映画をみているような，童話のよみきかせをきいているような気持ちになり，ゆったりときくことができました。徳永さんと高校の同級生なので，話にでてきて，親近感がわきました。

（たおのぷーさん　みあい）

★スカルラッティの演奏から引き込まれました。ギターのコンサートは初めてで，曲もほとんどなじみのないものでしたが，その美しさ，味わい深さに感心しました。お若いのに大したものだ。パクさん，ブラボー！！

（農天気）

★何故か，「アルハンブラの思い出」を聞いているときに，映画「ニューシネマパラダイス」の情景が頭によみがえりました。ささやくような音色なのに，その世界にひき込んでいくテクニックの素晴らしさが印象的でした。

（ぽこあぽこ　髙尾　良子）

★若くて美しい，まるでアイドル歌手のようにキュートな姿から，繊細な音楽があふれ，まるで宮殿の中にいるような気持ちでした。２部になると，力強い，難しそうな指使いも平気でこなす姿に圧倒されました。

（マミさん）

★春寒や赤きドレスのギタリスト異郷のソナタ熱く弾く　グワァダルキビール河沿いの都市景観など，旋律で記憶しているのは素晴らしいと思いました。

（アルカディア　天野　大）

★はじめ，音が電子音のように聞こえました。端から端まで使って豊かなやわらかい音色で良かったです。マイク，反対側に一台置いたらどうでしょうか。　（とろろ）

★優雅な音色に幻想的な世界を浮遊しているような気分になっていました。後半はブラジルの色彩に倒され，スペインの光と影に，ついに陶酔させられてしまいました。素晴らしいギターに酔ってしまったコンサートでした。

★市民コンサートでは，数多くの名ギタリストを聴いて来たが，朴葵姫を徳島で聴くことができて大変嬉しかった。あの小さな手から紡ぎだされる美しいトレモロ奏法を近くで見えて，思わずひき込まれた。　（桑原　佳宏）

朴　葵姫　例会の運営担当のみなさん

大西　正さん・洋子さん（ひえ畑）
井上さん　（めだか）
武田さん　（デュオ）
太田さん　（ムーンリバーⅡ）
松本さん・北島さん　（ハ長調）
井形さん，沖成さん，近藤さん，相原さん
おつかれさまでした。

朴　葵姫さんのサイン色紙当選者

佐野　由衣さん（ぽこあぽこ）
冨永　正志さん（ミルク）
八幡　昌代さん

おめでとうございます。

２・３月例会の会場でお受け取りくださ

事務局通信

◉ 12・2017/1 月例会に花を添えて頂きました。

今回も素敵な花束を
有難うございました

＜花　束＞
ゆり、梅、椿、
菜の花

＜アレンジ＞
チューリップ
ストック、ゾリアスター
クリスマスローズ

（大崎 訓子さん/提供）

◉ 演奏者に花束を渡して下さった方の紹介

2016 年８・９月例会「有森 博/ピアノリサイタル」で、大崎さんが作って下さった花束を、今回も沖野恵子さんの門下生、福岡 帆奈さんが届けてくれました。そして、10・11 月例会「横坂 源/チェロ・リサイタル」では、同じく門下生の小林 浬さんと、中西 莉奈さんが届けてくれました。

私は、有森 博さんに花束をお渡ししました。渡す時は、緊張しましたが、有森さんの暖かい握手と、笑顔で安心しました。また、素晴らしいえんそうを聞きたいです。
（福岡 帆奈）…8・9 月例会

CD やオーケストラでのチェロは聞いたことがありましたが、生の音を聞くのは初めてでした。こんなにもたくさん音色が出せるのかと驚きました。そんな興奮のなか、横坂さんに花束を渡せてよかったです。　（小林 浬）…10・11 月例会

さっきまで、ぶたいでえんそうしていたプロのひとに花を渡せてうれしかったです。プロの人の事を間近で、しかもあく手までしてもらえて夢のようでした。　（中西 莉奈）…10・11 月

◉ 2・3 月例会（原田 英代 /例会時）運営担当の皆さん

スターダスト	コスモス	救援会	東西	希望
１丁目七番地	フラワー	さつき	あさひ学園	

個人会員でお名前（性）の頭文字が「**サ**」行、「**タ**」行の方、よろしくお願いします。

※　毎例会の前に、運営サークル会という会を開いて、当日の運営担当をお願いしています。
例会運営に参加し、会員の皆さんと親交を深めることもよい音楽に巡り合う時間となると思います

◉　総会が開かれました

来たる３月５日に、市民コンサート徳島の第 48 回定期総会が開かれました。

１４名の会員の参加が有り、昨年 2016 年の活動のまとめや会計監査、2017 年の活動方針が報告されました。その後、議案について活発な意見討議がなされましたが、中心は会員を増やすには、どうすれば良いのか？という事でした。やはり、会員一人が一人を誘って行くことが必要だし、一番効果が有るのでは・・・。という意見が多く出されました。また、ホームページの充実を計ることや、もっと市民コンサートの素晴らしさを知らせて行くことが必要との意見が出されました。

最後に、議案の承認と運営委員の選出が有り閉会しました。

会員一人が一人に声をかけて地道に会員を増やして行くことに、ご協力をお願いいたします。

運営委員委員長　　小路常芳

◉　事務局から嬉しいお知らせです

今例会より、お仕事帰りで、例会に来られる方や、夕食を食べてなくて、少し小腹がすいたかな？という方々のために、**手作りのパンとコーヒーを販売**することになりました。試食したけどおいしいです。ぜひ、ご利用ください!!

◉　会員のみなさんが、楽しめる音楽会のために

無料の託児所をご用意しています。

例会会場には小学生未満の幼児は入場できません。

託児ご希望の方は 4/13（木）までに事務局までご連絡ください。→　☎088-652-4874

会場内のエチケット

1. ・携帯電話のスイッチは必ず切っておきましょう。音だけでなく、液晶画面の光も気になります。
2. ・演奏中の入場や座席の移動はできません。遅れた時は、係員の指示に従ってください。
3. ・会場内の撮影（携帯含む）・録音・喫煙は固く禁じられています。
4. ・演奏中の私語は絶対にやめましょう。

地下駐車場のサービス券も、ご利用ください!!

ホームページでのお問い合わせも多くなっています。

◉市民コンサート徳島では、ホームページを開設しております。ご存知でしたか?

http://concert-tokusima.com または市民コンサート徳島で検索

◉会費の納入は前納制です。

例会当日もロビーで前納受付をしておりますが、事務局に来られられない方は、下記の口座振り込みをご利用ください。

郵便振替口座　01690-0-41663　／　市民コンサート徳島

◉事務所受付時間

月・火・金曜日 12：30～17：00／木曜日 18：30～20：00／水・木（昼間）・土・日・祝日休み

市民コンサート徳島
これからの例会
2017 年

例会は、すべて郷土文化会館・大ホール
（あわぎんホール）
6:30ｐｍ開場／7:00ｐｍ開演

≪4・5 月例会　612 回≫青木 尚佳　ヴァイオリン・リサイタル　6/6（火）

ピアノ：中島 由紀

(c)井村重人

第 612 回例会には、ヴァイオリニストの青木尚佳さんを始めてお招きします。青木尚佳さんは、将来が有望な若手ヴァイオリニストとして、これからの活躍が期待されております。2010 年には、「リオデ徳島音楽祭」にも出演されています。ヴァイオリン界の新星によるフレッシュな演奏に、ご期待ください。

≪プロフィール≫

1992 年生まれ。2014 年 11 月、フランス・パリで行われたロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールで第 2 位受賞。併せてコンチェルトの最良の解釈に贈られるモナコ大公アルベール二世賞を受賞する。また同年 10 月、中国・チンタオで行われた第 4 回中国国際ヴァイオリンコンクールにて第 2 位受賞。更に、2016 年 6 月仙台国際コンクールに於いて第 3 位に輝いた。

ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクール入賞後、本格的な演奏活動を開始。東京・浜離宮朝日ホールでのリサイタル、飯守泰次郎指揮／大阪フィル、スダーン指揮／兵庫芸術文化センター管などとの共演で高く評価された。今後、NHK 交響楽団、東京交響楽団、大阪交響楽団との共演も予定されており、将来の活躍を期待される若手ヴァイオリストとして注目されている。

≪予定プログラム≫

モーツァルト ／ **ロンド　ト長調**
～「ハフナー・セレナード」K. 250 より
ドビュッシー ／ **ヴァイオリン・ソナタ**
サラサーテ ／ **カルメンファンタジー OP.25**

◆◇◆　休　憩　◆◇◆

R.シュトラウス ／ **ヴァイオリン・ソナタ OP.18**

≪今年の例会・ラインナップ≫

- 4, 5 月例会　（612 回）　青木 尚佳　ヴァイオリン・リサイタル　6/ 6（火）
- 6, 7 月例会　（613 回）　赤坂 達三　クラリネット・リサイタル　7/11（火）
- 8, 9 月例会　（614 回）　青山カルテット（弦楽四重奏）演奏会　9/21（木）
- 10,11 月例会　（615 回）　広瀬 悦子　ピアノ・リサイタル　11/30（木）
- 12,2018/1 月例会（616 回）　広田 智之　オーボエ・リサイタル　2/14（水）